

令和3年度 FD 実施計画書・報告書

令和4年3月現在

I 学部学科・研究科名

栄養科学部 栄養科学科

II-1 実施計画①【概要】

II-2 実施報告①【概要】（年度末記入）

取組No.	A FD センター重点項目	FD2021 取組項目	A FD センター重点項目 達成内容
1	DP 達成度評価の現状と課題抽出・計画策定 ・ DP ルーブリックの策定に向けた問題検討, 目標・計画設定 ・ DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討	I-1-(1)	・ 令和3年9月に学科FD推進員でDPルーブリック作成のための課題抽出を行った。その結果、①現DPと現カリキュラムツリーの間に整合性がないこと、②現カリキュラムツリーのベースをモデルコアカリキュラムから新しい栄養学モデルコアカリキュラムに変更していく必要があること、③現在のDPは理念的で達成度評価が困難であることが確認された。同年10月の学科会議において学科教員間で内容を共有し、この機会にDPの全面的改定を行う方針についてコンセンサスが得られた。 ・ DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討についてはR4年度以降に持ち越しとなった。
2	授業ルーブリック・課題ルーブリックの推進 ・ 各学科におけるルーブリック導入率 （授業ルーブリック・課題ルーブリック）の向上 ・ ルーブリック共通フォーマット導入の検討	I-2-(1)	・ 令和3年6月、シラバス入力に紐づいた授業ルーブリック課題ルーブリックの導入率を上げる意義についてオンデマンド研修を行った。 ・ 令和3年10月にFDセンターで策定されたDPルーブリック共通フォーマットをベースに、卒業研究など実施可能な科目から順次、次年度のシラバスに反映することが確認された。
3	Society 5.0の到来に備えたDP/CPの見直し ・ 数理・データサイエンス・AIに関連する科目等の設置検討	I-1-(4)	令和3年11月のFD研修会で議論した結果、数理・データサイエンスに関する項目は、モデルコアカリキュラム、管理栄養士国家試験出題基準の中に配置されており、すでに本学科の既存科目で教育されているため、DPの中には積極的にいれていくことを検討するが科目新設は不要と考えられた。一方、AIに関する栄養学教育は、コア・カリキュラムの大学院レベルにおける今後の課題と位置付けられており、現時点で学部のDPに入れるのは現実的でないという考えに至った。
4	「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定 ・ FDセンターから提供された成績評価ガイドライン(仮)(暫定案)をもとに研修会実施・意見共有	I-2-(2)	令和3年10月にFDセンターで策定された成績評価ガイドライン(仮)を、11月のFD研修会において学科教員間で共有した。栄養科学科からの独自案に関する意見はなく、R4年度以降の各科目の評価については、全学のガイドラインの基準を用いて、各科目の成績評価を検証することでコンセンサスが得られた。今後、各科目の成績分布を、基準または科目間で比較し、ガイドラインに基づく成績評価に近づくよう努力する必要がある。

5	各学科・研究科内 FD 研修会と情報共有の場の推進	I-2-(3)	学科の第 8 次中期総合計画に基づく研修を複数回にわたり実施した。これらは、FD センター重点項目にも部分的に関連する内容であった。
取組 N o.	B その他取り組み項目	B その他取り組み項目 達成内容	
6	教学マネジメント指針の推進 ・学部合同 FD 研修会を開催し、教学マネジメント指針の理解を深め、FD2021 推進の機運を高める。		学部合同 FD 研修会を開催し、FD2021 の実現に向けて、教学マネジメント指針のポイントを理解し、ディプロマ・ポリシーに定めた学修目標を達成するための教学改善の PDCA サイクル確立、適切な学修成果の可視化と情報公表に近づくための基礎知識を修得する機会となった。
7	栄養科学科の第 8 次中期総合計画の推進 ・管理栄養士の地位向上に向けたカリキュラム改革 ・課題解決ができる管理栄養士を養成		・令和 3 年 6 月、「管理栄養士の地位向上に向けたカリキュラム改革」に対して、データヘルス改革と society5.0 社会における管理栄養士の在り方について学ぶ機会となった。 ・令和 3 年 12 月、「課題解決ができる管理栄養士を養成」UNIPA 等の教育用コンテンツの開発を通じて、主体的に学生が国家試験の学習に取り組む仕組みづくりの可能性について学ぶ機会となった。

Ⅲ-1 実施計画②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】

Ⅲ-2 実施報告②【詳細(実施事項・内容、実施組織、評価項目等)】 (年度末記入)

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
5	4 月	今年度の FD 研修計画と共有を行い FD 活動に関する相互理解を深める。 キーワード：第 8 次中期総合計画の教育計画、授業アンケート、公開授業、新任教員ティーチングサポートプログラムについて ＜FD センター委員＞	4 月 22 日	今年度の FD 研修計画の共有を行い、FD 活動に関する相互理解を深めた。 ・第 8 次中期総合計画の教育計画、令和 2 年度授業アンケートの結果、ルーブリックの導入状況、公開授業の結果と活用、新任教員ティーチングサポートプログラムについて確認を行った。＜FD センター委員＞
3. 5	6 月	管理栄養士の地位向上に向けたカリキュラム改革：最近の現場で求められる管理栄養士像 キーワード：介護報酬改定、診療報酬改定、地域包括ケア、臨地実習 500 時間延長、臨床教授、栄養クリニック、栄養ケアステーション ＜渡邊准教授＞	6 月 24 日－ 7 月 3 日 オンライン	・FD2021 に基づく FD センター重点項目の共有を行い、今年度中に学科レベルでは DP ルーブリック作成のための課題抽出を行うこと、教員個別レベルでは科目別の授業ルーブリックおよび課題ルーブリックの導入を進めることの必要性を共有した。また、DP に基づく現在のカリキュラムの中で、数理・データサイエンス・AI に関する内容を、どの科目で、どのように、どの程度教えているのかを整理し、科目の新設の必要性の有無や、教育の方向性について共通認識をはかる機会をつくる必要があることが共有された。 ＜FD センター委員＞ ・データヘルス改革と society5.0 社会における管理栄養士の在り方 データヘルス改革に関する国の方針が紹介され、本学の FD 方針もそれに近い形で追従していることが紹介された。また、時代が求める 500 時間の臨地実習は、栄養科学科の第 8 次中期総合計画の 1 つでもあるため、臨床教授制度などの新設と並行し、小規模からのスタートでもよいので学科全体で進めていく必要があることが解説された。＜渡邊准教授＞
6	7 月	教学マネジメント指針（学部合同 FD 研修会） FD2021 の実現に向けて、教学マネジメント指針のポイントを理解し、ディプロマ・ポリシーに定めた学修目標を達成するための教学改善の PDCA サイクル確立、適切な学修成果の可視化と情報公表に近づくための基礎知識を修得する。栄養科学科とフード・マネジメント学科の合同開催。＜大久保教授、株田教授＞	9 月 30 日	FD2021 の実現に向けて、栄養科学科とフード・マネジメント学科の合同 FD 研修会を開催した。 ・DP に定めた学修目標を達成し、「しっかり学び、元気に活躍する学生」を養成するため、教学マネジメント指針の中でも、教学改善に取り組む目的を教員間で共有し、直接評価と間接評価による適切な学修成果の可視化も含めた PDCA サイクル確立が重要であることが説明された。＜株田教授＞ ・FD の基本的理解のために、①FD の定義、②FD の変遷、③海外の FD、④日本の大学の FD における現状、⑤本学の FD の特徴について解説がなされた。次いで、今後の持続的・効果的な FD 実現のためには、学生のデータを活用できるような仕組みづくりと、IR の活用が必要であることが説明された。＜大久保教授＞

取組 No.	予定時期	内容	実施日	達成内容(未達の場合は理由を記載)
1, 2	9 月	教育ワークショップを踏まえたルーブリックの推進 <学科全教員>	9 月 6 日	FD2021 の概要や DP ルーブリックの意義および作成手順、3 学科のルーブリックに関する先行的取り組みの状況が紹介された。学科内で、DP ルーブリックを作成するために、以下の内容を検討する機運が高まった。 1) DP とカリキュラムツリーの互換性の確認、2) カリキュラムツリーとカリキュラムマップの互換性の確認、3) カリキュラムマップを新様式に更新 (DP との対応を点数化による重みづける)、4) DP 修正・変更の必要性の有無の検討、5) DP ルーブリック作成までの大まかなタイムスケジュールの設定について
5	10 月	課題解決ができる管理栄養士を養成：各教科・教員の特性を活かした教科横断的な教育 ICT を活用した教育方法について <中藤准教授>	12 月 16 日	栄養科学科の第 8 次中期総合計画である「課題解決ができる管理栄養士を養成：各教科・教員の特性を活かした教科横断的な教育」について、UNIPA や独自の教育用コンテンツを用いて、主体的に学生が国家試験の学習に取り組む仕組みづくりについて、現時点の課題と未来像を含め紹介がなされた。また、教育用コンテンツを作る過程においては、学科教員の協力が必要であることについて確認がなされた。 <中藤准教授>
1. 3. 4	11 月	DP 達成度評価の現状と課題抽出・計画策定 数理・データサイエンス・AI に関連する科目等の設置検討「成績評価ガイドライン(仮)」のポリシー策定 ・ DP ルーブリックの策定に向けた問題検討、目標・計画設定・DP ルーブリックに関するアセスメントプランの検討 ・ 数理・データサイエンス・AI に関連する科目等の新規設置の必要性について意見交換 ・ FD センターから提供された基礎資料をの情報共有 <学科全教員>	11 月 25 日	学科教員間で意見交換し、数理・データサイエンスに関する項目は、モデルコアカリキュラム、管理栄養士国家試験出題基準の中に配置されており、すでに本学科の既存科目で教育されているため、改訂 DP の文言にはとりいれていくことを検討するが科目新設は不要と結論づけられた。一方、AI に関する栄養学教育は、コア・カリキュラムの大学院レベルにおける今後の課題と位置付けられており、現時点で学部 DP に入れるのは現実的でないと考えられた。
5	2 月	三学科、すなわち栄養科学科、フード・マネジメント学科および食物栄養学科、合同で各教員の研究を紹介する。また、研究プロジェクトの成果を報告する。<学科全教員>	2 月 24 日	合同研究大会は対面と Zoom を用いたハイブリッドで実施された。栄養科学科、フード・マネジメント学科および食物栄養学科のプロジェクト研究代表者より成果発表が行われ、栄養学系の学科で実施された研究内容が共有された。また、新任教員が取り組んでいる研究紹介が行われ、栄養科学科からは、加藤教授より「NAFLD/NASH の発症・進展機構における肝臓内の代謝・炎症性変化の検討」というテーマで講演が行われた。